

4 定光寺公園

六角堂の浮かぶ正伝池を中心とした公園で、愛知高原国定公園の一部として指定されています。桜の名所として有名ですが、紅葉の時期にも、境内の周りが色づき非常にきれいです。正伝池には赤い弁天堂が池に突き出し、その先に浮島があり開運弁財天を祀る弁天堂があります。もともと定光寺本堂左手の池にあった六角堂を移築したもので、毎年4月に一度扉が開けられます。秋には周辺の紅葉とともに絶好の写真スポットとなっています。



5 定光寺

応夢山定光寺は、臨済宗妙心寺派に属し、地藏菩薩を本尊とします。建武3(1336)年に覚源禅師により開山されました。瀬戸地方のみならず尾張東部や美濃地方からも寄進を集め、広い信仰圏を持つ寺院でした。太閤検地の際に寺領が没収され一時衰退しますが、尾張徳川家初代藩主徳川義直の墓所となってからは、尾張藩の庇護を受け格式の高い寺院として優遇されるようになります。



Check 本堂(重要文化財)

暦応3(1340)年に建立され、火災にあいますが明応2(1493)年に再建されました。本尊を安置する宮殿は明応9(1500)年に完成しています。本堂の上層部分は、明治13(1880)年以前には板葺きの切妻造の仮屋根となっていたようですが、昭和13(1938)年には本堂全体の解体修理が行われ、上層仮屋根は同様の建築様式の事例や宮殿の構造をもとにこけら葺の入母屋造に復元されました。本堂は、方三間の主屋の周囲に裳階をとりつけた構造で、下層の斗拱や棧唐戸、外壁の花頭窓、内部の海老虹梁や大虹梁・大瓶束の特徴は、典型的な禅宗様をなしています。大正15(1926)年に国指定文化財となりました。

6 源敬公廟(重要文化財)

慶安3(1650)年に没した尾張徳川家初代藩主の徳川義直の墓所です。慶安4(1651)年に墳墓・石標、承応元(1652)年に竜の門以奥の門(唐門)・殿舎(焼香殿・宝蔵)・築地塀が完成し、元禄12(1699)年に獅子の門が建てられました。徳川義直は儒教の影響を強く受け、死に際しても他のほとんどの諸大名が仏式の墓を築く中、仏式の法名を受けることを拒み、霊廟は儒教式の建築となりました。設計は、明から帰化した陳元賛によるものと伝えられ、儒教の礼制に基づく建物配置と殿舎の銅葺瓦に魚形の正吻や腕手を載せるなど、中国風の意匠が一部にみられます。江戸時代前期における中国建築の実態を示す事例として興味深い建造物群です。昭和12(1937)年に、国指定文化財となりました。

Check 焼香殿・宝蔵



焼香殿は、承応元(1652)年に建立された、墓所の拜殿に相当する建物です。寄棟造り一重の構造で、外面には精緻な雲竜の透かし彫り欄間彫刻がみられます。床に敷かれた敷瓦には鉄釉(黒い釉薬)が施され、さらに中心から四隅に鳶を伸ばした唐草文が美しく描かれています。

宝蔵は、焼香殿の東側に隣接して造営された建物です。内部は「北室」「中央室」「南室」の3部屋に分かれており、それぞれ北から遺言書を納める室、祭器を納める室、神厨(神に捧げる供物を調理する部屋)に相応しています。北室の床面には志野釉の敷瓦が敷かれています。

Check 源敬公墓

慶安3(1650)年に没した徳川義直の墳墓です。翌年に石標とともに造営され、さらにその翌年には墳墓を取り囲むように塀と唐門が完成しました。廟域の東側に設けられた突出部には、元禄年間(1688~1704)に整備された殉死者の墓もみられます。



➤ 焼香殿と穴田窯跡の敷瓦

定光寺から南に約7kmの丘陵には、江戸時代前期の「穴田窯跡」が残っていますが、そこから「水野久之丞」と墨書された鉄釉唐草文の敷瓦が出土したことで注目されました。久之丞は寛永19(1642)年から寛文12(1672)年まで初代の尾張藩の「水野御案内者」を務めた人物であり、その名前が敷瓦に記されているということは、穴田窯出土の瓦が尾張藩の意向を受けた久之丞による発注品であることを物語っています。また、源敬公廟焼香殿に敷かれている瓦には、上水野村製であることを示す「水野釜」「水野かま善九郎」の墨書がみられます。こうしたことから、焼香殿敷瓦の一部は穴田窯の製品であった可能性が極めて高いと考えられています。



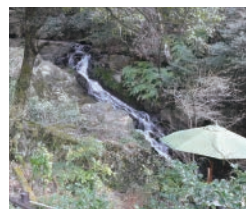
7 直入橋

定光寺の参道入り口の池にかかる橋で、この橋の前で参拝者が馬を下りたことから「下馬橋」ともいわれていました。尾張藩二代藩主徳川光友が、時の奉行熊谷政実に命じて架設させた石橋で、承応2(1653)年2月に着工し、同年5月に完成しました。橋は全て花崗岩でできており、その構造は池の兩岸の石積みに、長さ6m以上もある三本の橋桁を渡し、その橋桁に主な橋部を組み合わせています。池に蓮を植え、参道に桜並木をつくるなど、橋とよく調和した風景であり、江戸時代には、定光寺における優れた景勝である「応夢山十境」の一つ「一超直入」に挙げられていました。



8 晒しの滝

定光寺公園から城嶺橋へ流れる定光寺川は、笠原断層沿いに流れる極めて急峻な河川です。河床には古生層の岩盤が露出し、独特の峡谷景観をなしています。河川中ほどにある晒しの滝は、比高差10m近くの滑滝で、水流の様が布晒しを思わせることからこう呼ばれるようになりました。傍らには茶店もあり、定光寺駅へ向かう際に滝を眺めながら休憩する絶好の場所となっています。



9 城嶺橋

もともとは名古屋開府250年を記念し、明治42(1909)年3月に着工、翌年完成した木橋です。この木橋は完成の翌年に大水で流出してしまい、大正元(1912)年に吊橋で復旧しますが、昭和11(1936)年、2代目橋の下流側に平行して京都四条大橋を模してコンクリートアーチ橋建設に着工、翌年完成したのが3代目である現在の橋です。親柱に尾張徳川家19代義親氏による「城嶺橋」の揮毫があり、大正期の水平線・垂直線を強調する「セセッション」風デザインであった「まぼろしの四条大橋」の面影を残した橋として、貴重な近代化遺産となっています。

